

山城高等学校勤務時代の 思い出の一片

旧職員 中川 徹

私は今春三月、現職としての最後である東稜高校を退職し、四月より、京都すばる高校で英語科の講師として勤務しております。山城高校には、昭和五十六年四月より平成七年三月までの十一年間お世話になりました。私自身にとっては三十代最後の年から四十代最後の年までの勤務であり、教職生活の半ばでした。赴任当時は、閑静な住宅地と商業地域とともに含んでいたこともあり、本校生徒は様々な人達に様々な対応ができるのではないかと感じました。多種多様な環境から集まってくる人達の集団のため、自分自身を精神的にも鍛えている、また鍛えることが出来るという面を感じました。

さて、在任中、諸々の思い出や体験の中で忘れられないことは、二年連続の三年生担任、及び三年連続での三年生担任を務めたことです。特に二年連続での三年生担任の時は、一年目が

公立高校の旧制度の最後の学年の卒業生であり、二年目は新制度（Ⅰ類、Ⅱ類制度）の最初の学年の卒業生でした。戦後より長い間の制度のもとでの最後の学年、生徒諸君は自主性や自立心に溢れ、学校行事なども率先して行い、場合によっては「先生、任しといてくれ」的な雰囲気が強かったと記憶しています。そして次年度、新制度の最初の学年ということで、制度による違いが生徒諸君に与える影響や、そこから醸し出される雰囲気の違いはどうなっているのだろうか、という思いを強くしましたが、「案ずるより生むが易し」で、生徒達は大変素直な態度で何事にもよく頑張った学年でした。両学年共に集団としての生徒諸君の気質、雰囲気、学習や行事に取り組む姿勢等、それぞれに特徴や相違点はありましたが、共に素晴らしい学年であったと思います。

次ぎに思い出されるのは、赴任七年目より、今春までの十五年間、野球部を担当したことです。私は学生時代（それも小学校時代）以来、野球が好きでしたが、実力も経験もない私にとっては、野球部の顧問を初めて依頼された時には正直戸惑いました。ですが、自分の気持ちに素直になろうと考え、二つ返事で引き受けました。普段の練習の成果を見る練習試合や公式戦の引率は勿論のこと、事務的なことも含めて、縁の下の力持ち的存在になろうと決心しました。実際、白球を全員で追い求め

るこの素晴らしいスポーツを通して努力する野球部員の姿に接し、感動したことも多く、大変有意義な経験をさせていただきました。そして山城高校がその原点でした。山城高校でお世話になったことを感謝し、今後も山城高校、並びに野球部の発展を心より祈願申し上げる次第です。



現在の中庭